



<http://www.hcr.or.jp>

Int. Home Care & Rehabilitation

CONTENTS

H.C.R. 2013
福祉機器利用者アンケート
～集計の結果が明らかに!～ 1

News
・介護報酬改定に向け、福祉用具の範囲について
議論
・平成26年度介護報酬改定を了承 4

H.C.R.セミナー報告
超高齢社会のまちづくり
～柏市豊四季台地域での取り組みをつうじて～ 5

H.C.R. 2014 開催案内 8

編集・発行：一般財団法人 保健福祉広報協会
Publisher : Health and Welfare Information Association
住所：〒100-8980
東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル
TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798

H.C.R. 2013 福祉機器利用者アンケート

— 集計の結果が明らかに! —



加速する高齢化の進行、障害のある方々の社会参加の拡大などに加え、生活スタイルや地域社会の環境の変化なども影響して、福祉用具に寄せられる要望・ニーズはますます多様化、個別化が進む傾向にあります。一方では、介護ベッドや電動車いすをはじめ、福祉機器をめぐるトラブルは現在も解消されておらず、使用方法の徹底や安全性確保のための注意喚起などが次々と促されているといった状況もあります。

こうした背景も踏まえつつ、福祉機器ユーザーの最新の生の声を抽出することを目的に、

H.C.R.では、第40回国際福祉機器展H.C.R. 2013の会期中に、本年度も「福祉機器利用者アンケート」を会場内で実施し、H.C.R. 2013の来場者全体が増加した影響もあって、昨年度より446件多い1,263件もの回答を得ることができました。

回答者の内訳は、男性が420名(33%)、女性が836名(66%)、無回答7名で、年齢別にみますと、20歳代以下が307名(24%)、30歳代が190名(15%)、40歳代が258名(20%)、50歳代が267名(21%)、60歳代が165名

(13%)、70歳代以上が70名(6%)、無回答6名となっています。

今回の調査結果を貴重な参考資料として、H.C.R.では、福祉機器の選び方・使い方や最新の製品データなど、利用者に役立つ機器についての適切な情報の発信にさらに力を注いでまいります。

関係者の皆さまにおかれましても、日々の福祉機器に関わるお仕事を進められるうえで、今回の調査結果を利用者の声としてご参考にしていただければ幸いです。

図1 福祉機器情報の入手方法
(※複数回答可)

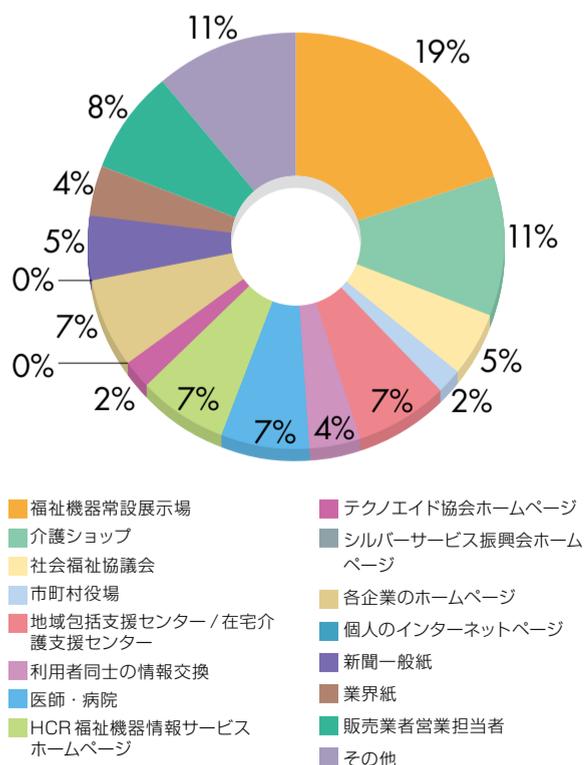


図2 購入/レンタル時の相談窓口
(※複数回答可)

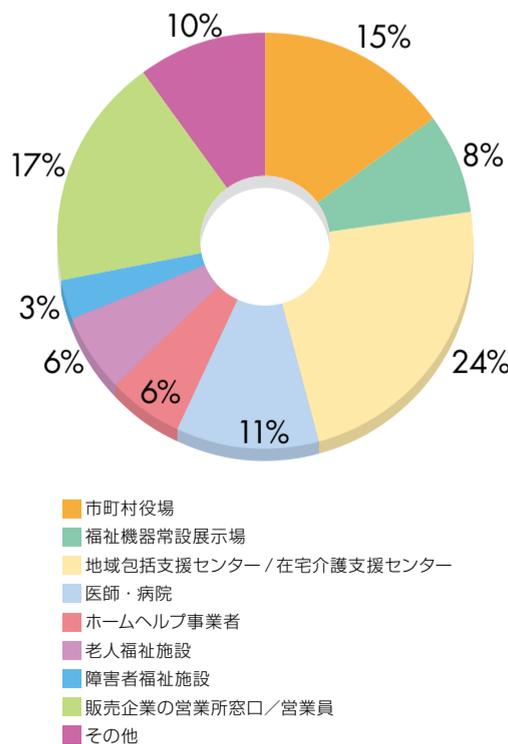
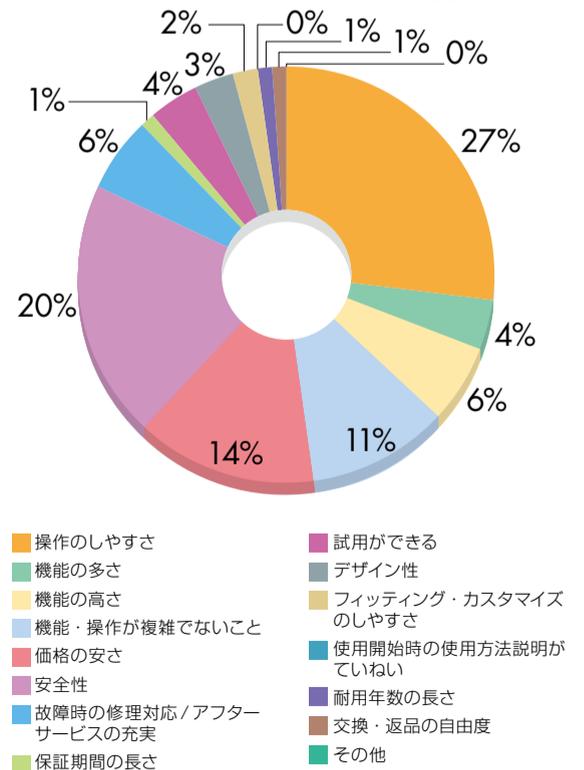


図3 利用にあたって望まれること
(※3つまで選択可)



1 福祉機器情報の入手方法 図1

福祉機器情報の入手先としては、昨年度に引き続き、「福祉機器常設展示場」が19%と最も多く、次いで「介護ショップ」の11%です。この2つが上位となる背景には、実際に機器を見て、触れることができるという安心感と信頼度の高さにあるのではないかと考えられます。続いて、「販売会社営業担当者」が8%を占め、その後は、「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」「医師・病院」「H.C.R.福祉機器情報サービスホームページ」「各企業のホームページ」がそれぞれ7%で並んでいます。

2012年の前回調査に比べて基本的な傾向は変わっていませんが、「社会福祉協議会」や「市町村役場」が減った一方で、「医師・病院」が4%から7%、「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」が6%から7%、「業界紙」が3%から4%とそれぞれ微増しています。

2 相談窓口 図2

福祉機器を購入・レンタルするときに相談した窓口としては、2011年の前々回調査ではじめて一番多くなった「地域包括支援センター／在宅介護支援センター」が引き続き24%（昨年度は26%）で最も割合が高く、続いて、前回次点だった「市町村役場」に代わって、「販売企業の営業所窓口／営業員」が17%（昨年度は19%）で2位となりました。また、この設問でも「医師・病院」が昨年度の9%から11%と伸びを見せたほか、「福祉機器常設展示場」が8%、「ホームヘルプ事業者」と「老人福祉施設」が6%と、それぞれ昨年度より1%程度ずつ微増し、さまざまな相談窓口がバランスよく活用されてきている傾向が示されています。

3 福祉機器の利用にあたって望まれること 図3

福祉機器の利用については、今回のアンケートでもさまざまな要望が出されましたが、最も多かったのが、「操作のしやすさ」で27%（前回24%）、続いて、「安全性」で20%（前回18%）と、いずれも前々回、及び2012年の前回調査から増加し続ける傾向にあります。利用者の多くが高齢であることから、操作性の単純さ、分かりやすさ、正確に使いこなせることなどが意識された機器の方が事故やトラブルの防止のためにも効果的だと考えられている傾向は続いているものと思われます。

また、3番目は「価格の安さ」の14%で、この上位の順番はここ数年定着していますが、一方で、「機能の多さ」や「機能の高さ」なども前回調査からそれぞれ1～2%増加しており、利用する際のニーズの多様化が進んでいることがうかがえる回答結果となっています。

4 福祉機器の開発や利用についての意見・要望

使用者側の操作能力や取り扱い方法への理解などの想定、安全性、明確なコンセプト、個々の障害や年齢などの特性に合わせた製品の企画、こまかなこだわ

りの開発視点への反映の希望、当事者意見を機器の製作に活かすことを求める意見など、さまざまな要望が寄せられました。

- ① 安全でかつ、自立を助ける用具の開発を希望します。その機器を利用することで、どんなふうに住生活が向上するかというコンセプトや他社製品との「違い」を明確にして販売していただけたらありがたいです。
- ② 高齢の聴覚障害者の生活に対応できる機器がもっと増えてほしい。
- ③ 玄関などの狭くて段差のある場所で、車イスごと昇降できる設備があればと思います。
- ④ トイレなどでズボンなどが簡単に上下できる製品や、足腰の弱い方々が安易に用が足せるような設備・機器が、もっとあればいいと思う。
- ⑤ 全般的に、機器の保証期間が短いと思います。
- ⑥ 「ファジー」より「実用性」や「シンプル性」を大切に、管理がしやすい用具が増えて欲しいです。
- ⑦ 取扱説明書がわかりづらいことが多いので、利用される家族などにもわかりやすいものにして欲しいです。また、フィッティングの説明が不足しがちだと思います。
- ⑧ 現在介護現場で使われている機器はスペースを取られることが多いので、コンパクトな製品が増えてくると助かります。また、製品の静音性を高めることも大切だと思います。
- ⑨ もっと台所用品用の自助具などが増え、自立した家事ができるようになるとよい。
- ⑩ もっと重度の身体障害を持つ方の自助具が増えるとういと思います。
- ⑪ 介護ロボットがかなり研究されてきている。安全面や実用面などでまだまだ課題は多いと思うが、早く実用化されることに期待します。
- ⑫ 介助者が操作するのではなく、利用者自身が操作できる機器で、それがさらにリハビリにつながるような製品の開発をお願いしたいです。
- ⑬ 安全性はさらに重視して欲しいです。また、介護度が低い人が気軽に使える器具が増えるとういと思います。
- ⑭ 当事者の立場に立った、実用に向けた用具を製作するために、もっと当事者からの意見聴取が必要だと思います。そのためにも、開発途中のやりとり当事者が遠隔地からでも参加できるシステムが必要だと思います。
- ⑮ 操作のしやすさ、わかりやすさという点でいうと、操作をする人々の多くの割合が高齢者なのだから、アルファベットの操作でなく（カタカナを含む）、日本人には日本語（ひらがな、漢字）での表現の方がよいと思う。
- ⑯ 高齢者同士の老老介護が多いので、複雑な操作は難しい。機器の取り扱いに十分な説明や相談の対応をお願いしたいです。
- ⑰ 将来的には、介助のいらぬ福祉機器の開発が望まれます。そのためには、ロボットで安全性・低価格な製品の開発が必要不可欠であると思います。
- ⑱ 使いたくなるようなデザインで、色がカラフルで、使用者のニーズをきちんと把握した商品が、もっと開発されるとよいです。
- ⑲ 使用後の用具の廃棄の方法について、しっかりと

リサイクルできる体制にして欲しいです。

- ⑳ 商品の試用ができる機会がもっと増えると、ベストな用具の選択ができると思います。また、用途などの変化に対応できるよう、できるだけレンタルを多くして欲しいです。
- ㉑ 失語症者の機器など、疾患ごと特化した商品がもっと増えて欲しいです。
- ㉒ 障害者のニーズは、もっと様々な生活場面に潜んでいると思います。たとえば、今回のH.C.R.では、自動物干しなどの展示がありませんでした。
- ㉓ セミオーダーやオーダーにも対応できる機器が、もっと積極的に開発されるようになって欲しい。
- ㉔ 個々の製品の開発だけでなく、ハード面や、まち全体を楽に移動できたり、生活できたり、健康者にも優しいといった視点が必要だと思う。

そのほか、以下のような製品の開発・情報提供が進んでほしい。

- ・大人向けだけでなく、中・高校生くらいの大きくなった子ども向けの製品（全般的に子ども向け製品が減少している気がします。）
- ・座位がとれない人が使える製品
- ・大腿骨頸部骨折にて人口骨頭置換術後の患者が自分で足の爪を切ることができる製品・方法
- ・中高年が行う介護に関して体力や難しい操作の要らない製品
- ・入浴介助用椅子で、自宅で昇降できる浴場専用の製品
- ・認知症の方の服薬管理機
- ・片麻痺の人や認知症の人が安全に使える歩行器

5 福祉機器に対する不満

「福祉機器に日頃感じている不満」について、フリーアンサー形式で回答を求めたところ、「価格の高さ」もさることながら、各製品に共通した傾向として、「製品の重量、サイズ」「デザイン性」「種類の少なさ」「自分にぴたりとフィットする製品の見つかりにくさ」などを指摘する声が目立ちました。製品の品目ごとの回答は次のとおりです。

1. 手動車いす

- ① 重たいし、長時間座りにくく、故障したときの修理が大変です。
- ② 点滴台を持ったり、人工呼吸器・吸引機などを置いた場面が想定されていないので、これらを伴っての移動に苦慮してしまいます。
- ③ 体形に合わないケースや、座面調節が難しく姿勢保持がうまくいかずに、褥瘡ができたりすることがあります。
- ④ ブレーキの利きが悪く、壊れやすいです。また、タイヤゴムの劣化も早く、安定感も今一つです。
- ⑤ 買い物の荷物を運ぶためのスペースなど、生活面での工夫が配慮された製品を期待します。
- ⑥ 体格のよい高齢者が増えたためか、大型化が進んでいるが、重さや狭いところの移動などで不便になるケースが多くなっています。より小回りの利く機器を望みます。
- ⑦ アームレストが上に開かないため、ベッドへの移乗の際に邪魔になってしまいます。

- ⑧ 雨や雪の日の移動を想定した研究・開発をしていただくと、とてもありがたいです。

2. 電動車いす／電動スクーター

- ① 販売店からは細かい充電はしない方がよいといわれてはいますが、遠方に出かけるときには不安があります。また、充電時間が長いことにも困っています。
- ② 最近のニュースで転倒の恐れがあるといわれていると耳にしましたが、安全面が心配です。
- ③ 大きく、重くて、小回りが利かないと思います。

3. 車いす関連用品

- ① 子どもたちは成長が早いので、背中や座面のクッションの収縮・取り替えなどにさらなる工夫をお願いしたいです。
- ② 電動アシストが付けられる車椅子が限られていて、仕様によっては使うことができないのは不便です。

4. 歩行器／歩行補助車

- ① 肘について使いたいのですが、身長が高いので使いづらく、ちょうどよい高さのものが見つからない。
- ② 荷物を入れる容量や機能、デザイン性などに不満があります。
- ③ コンパクトな製品が少ないです。自宅に置いても邪魔にならないサイズのものがあるとよいのですが。
- ④ パーキンソン病など、特定の疾患を考慮した器具があるとありがたいです。

5. 杖

- ① グリップの太さ、長さ、硬さ、色がもっと選べるとうれしいです。
- ② 車椅子と併用しているのですが、杖を使わないときの収納に困ります。
- ③ 本人が力をかけすぎているせいもあるのですが、先ゴムの劣化や、特定の部分の傷みが早く、高さ調整で音がカチカチになったりもします。
- ④ 軽量、コンパクトに偏重しすぎたのか、少々手や物がふれた程度で倒れたりします。

6. ストレッチャー等移動用具

- ① チェアキャブによっては対応できない用具があり、車に載せられないことがあります。汎用性という面を考慮して欲しいです。

7. 介助・歩行補助ロボット

- ① パンクの頻度が多いほか、しばしば小さな穴があき、空気がもれてしまいます。

8. 障害者用自動車運転装置

- ① 総じて価格が高いたけでなく、車種によって装置が違うので、買い替えのたびに買い直さねばならないのが困ります。

9. 福祉車両

- ① スライドステップが出てこなくなったり、出たままになったりしたことがあります。
- ② 車いすの乗降に多少の時間がかかり、車いすの

- 引き上げベルトが時々引っかかることもあります。
- ③ 高価格に加え、ちょうどよいサイズ・タイプが少ないことや、乗り心地の悪さがネックだと思います。
- ④ 車椅子を乗せてしまうと、介助者をはじめ、乗れる人数などがとても制御されてしまいます。
- ⑤ 現状では、ほとんどの車は一人の高齢者や障害者を対象にしたものですが、超高齢社会に向けて、二人以上の乗車を想定した車を考える時期に差しかかってきているように思います。

10. ベッド

- ① 離床センサーが鳴りっぱなしになることがあり、ストレスを感じるがあります。
- ② 背上げの場所が、利用者の身体寸法に適さないことが多いと思います。

11. マットレス・床ずれ防止製品

- ① 体位交換時に不安定さを感じることがあります。
- ② いろいろなメーカーからたくさんの種類が製造・販売されていますが、特徴が複雑すぎて、選定のためのポイントがわかりにくいです。

12. 浴槽

- ① 浴槽の高さがどうにかなるとよいのですが。現状の製品では、介護現場では、入居者全員の個浴対応が困難な状況です。

13. 入浴用チェア

- ① 座浴イスのマットが硬く、素材のせい、カビのような黒い汚れが出やすく、洗剤でも綺麗にならないので困っています。
- ② 大腿後面が全面的に支持されるものが少ないため、安定性が低くなってしまい、ギョッチアップをするたびに体がずれてしまいます。かといって、安定性を優先させすぎるとチェアの幅が広がってしまい、風呂場のなかでの動きが取れないので、こういった問題を念頭に開発を進めていただきたいです。

14. 滑り止め用品

- ① お湯を入れると浮力でマットが少し浮いてしまうことがあります。

15. 入浴用リフト

- ① 浴槽に取り付けるタイプを使っていますが、安全ベルトがなく、不安定に揺れるのが気になっています。

16. ポータブルトイレ

- ① 全般的に少し大きい気がします。また、安定性を高めるために重いので、移動に苦慮します。
- ② 便座カバーの在庫が少ないです。また、座面の高さ調整幅がもっと広いとよいと思います。
- ③ 男性の場合、簡単にできるような、座るタイプではないトイレはないのでしょうか？
- ④ 臭い問題は、やはり開発が進んでほしいところです。

17. 便器・便座

- ① 同一メーカーのトイレとシャワーイスを併用すると、ウォシュレットが全く使えないのは困ります。

- ② 便器が低く、電動で便座をあげているような状況です。

18. 防臭剤・消毒剤

- ① 防臭のために消臭剤を使うのですが、いかにも消臭剤という臭いの方が、きつい場合があります。

19. 自動排泄処理装置

- ① 以前に担当した利用者さんで使用したことがありますが、パットが硬くて、湿気もあるため、床ずれになってしまいました。

20. 靴

- ① 子どもたちや高校生の肢体不自由児など向けに、流行のデザインのハイカットシューズなどがあってもいいのではないのでしょうか？

21. 障害者用OA機器、ソフトウェア、操作補助具

- ① 震えがある子どもに対応している、必要タッチの時間が長いキーボードに対応できるタッチペンが欲しいです。

22. 洗面台

- ① シンクが浅すぎると、すぐ水が周囲に飛散して汚れやすいことがあります。

23. 歩行等訓練機器

- ① ハイテクな機械が多いですが、お年寄りの方々が一人で使いこなせているのか、甚だ疑問です。
- ② 筋緊張をほぐせるクッションなどを選ぶのが難しいです。

24. 義肢・装具

- ① デザイン性が悪く、人前で使用するには抵抗があります。皮膚に触れる部分の、肌触りがよくない点や、装着に手間がかかることにも不満があります。

25. その他日常生活用品

- ① いろいろな製品で、肩ベルト、腰ベルトがついているものが少ないです。座位がとれない人も利用できるようにして欲しいです。
- ② リウマチ用ソックスエイドが、硬くて使用しにくいです。
- ③ 聴覚障害者の筆談用具やFAXなどが、もっとあるとよいと思います。
- ④ 移乗用の機器は、脚が広くて狭い部屋では使いづらいです。もう少し手軽に使える移乗介助用の器具が欲しいです。

26. 食器用具／食器

- ① 手首をかえさなくてよいように曲がっているスプーンでも、利用者が口元にもっていく間に、食べ物落ちてしまいます。個人の障害に合った製品が少ないからであり、オリジナルが欲しいところです。
- ② 介助皿は、掏いやすいように縁にかえしがついていますが、利用者さんは上手く掏えないのが実態です。

